

屋台が醸し出す路地裏気分

——博多・春吉橋

「ここでやりよつと？ ズーっと探しとつたんよ」「ハイ。また来てね」。これから店へご出勤のあでやかなオネーサマと屋台のオヤジさんが言葉を交わします。

ここは九州随一の歓楽街、博多・中洲。水面にネオンきらめく川沿いに、以前別の場所で開催していた十数軒の屋台が集まり、どこも大賑わいです。

気軽に立ち寄れて地元客にも観光客にも人気の屋台の始まりは、戦後の食糧難の時代。衛生面や道路使用の問題で一時は消滅の危機に瀕しましたが、公認された現在は中洲や繁華街の天神周辺などで100軒以上が元気に営業中です。

メニューも、ラーメンやおでんから、焼き鳥、洋食、はてはジャズが流れるバーマで実に多彩。さすが全国に知られる屋台のまちであります。

「学生時代は隣りに座った知らないオジサンからようおごつてもらったけんねえ」。一軒の屋台に陣取ると、今では本人が立派なおジサンがお銚子を傾けてきます。殺伐とした都会暮らしに疲れた時は、この近さもまた良しです。小綺麗にするだけがちまづくりじゃない。時代がどう変わろうと、温かくて懐かしいこの空気は残しておいてほしいものです。



ワタを取って明太子を詰めた「イワン明太子」は屋台や居酒屋の人気メニュー



目白リバーサイドウォーキング

——目白駅界限

坂のまち、目白

30年数前に上京して学生時代を中野で過ごした後は、ずっと目白暮らし。すっかり地元になった目白界隈をご案内しましょう。

まずは駅改札を出て目白通りを右へ。学習院キャンパス沿いに700mほど歩くと、明治通りを跨ぐ千登世橋に出ます。欄干越しに新宿方面を眺めれば、新目白通りと交差する高戸橋付近はかなり低いことがわかります。昔、神田川（妙正寺川）に削られてできた地形なのでしょう。そのため、新目白通りと目白通りの間には「のぞき坂」「宿坂」「富士見坂」と、千登世橋周辺には名の付く坂がいくつもあり、けっこうな急坂を上り下りしなければなりません。

歩みを進めましょう。「宿坂」を下ると金乗院の山門があります。地名の由来にもなったという「目白不動尊」を祀る寺です。ただし由来はいろいろで、この

辺りで生まれた白い馬に由来する説、三代將軍家光が鷹狩りで訪れた折、目黒に対して目白と呼ぶよう命じた説など、諸説あります。そうそう、不動尊は白だけじゃないのをご存じですか。山手通り近くの「目黒不動尊」はよく知られていますが、ほかに目赤、目青、目黄とあって、全部揃って「五色不動尊」。仏教の五行思想に由来し、江戸の五不動は寛永年間（1624～1643）に指定されて今に至ります。

さらに300mほど歩くと神田川に架かる「面影橋」へ。ここから江戸川橋までは桜の名所で、春には川にせり出した満開の桜が幾重にもなっって見事です。

大都会のオアシス

「面影橋」から神田川沿いを上流に向かうと、明治通りと新目白通りとの交差点。ここからは新目白通りを練馬方向へ歩きましょう。山手線の高架をくぐり、コンピニの先を右へ曲がると「おとめ山公園」です。直進すれば、牡丹寺の別名で呼ばれる「薬王院」もあり、4～5月には多くの見物客で賑わいます。

さて、「おとめ山公園」で一休み。ロマンチックな

目白不動尊



おとめ山公園



面影橋を走る都電



坂の案内板いろいろ

響きですが、漢字だと「御留山」または「御禁止山」と、少々味気ない。将軍家の狩猟地だった江戸時代は、一般の立ち入りが禁止されたことから、この名がついたとか。園内は起伏に富み、ナラ、シイ、クヌギなどの落葉樹が生い茂り、斜面からは東京の名湧水57選に選ばれた湧水が出ています。湧水を利用した蛍の生育も行われていて、7月には「蛍鑑賞会」が催されます。都会の真ん中で「蛍」。情緒がありますね。

さらに先へ進みましょう。今度は上り坂です。坂の名は「相馬坂」。明治末期、この一帯を買い取って建てた屋敷へ繋がった相馬家の坂だったため、こう呼ばれます。上りきった突き当りを右へ進むと「駐在所」があります。一帯は「目白近衛町」といわれ、明治時代に貴族院議長や学習院長などを歴任した近衛篤麿が居を構えた由緒ある邸宅街です。

駐在所の交差点から右を見ると、道路の真ん中に「近衛の櫓」。この大木は旧近衛邸の玄関先にあたり、篤麿侯は馬車で三周して出勤していたほど気に入って

いたようです。戦後、近衛邸の解体とともに伐採の運命にあった櫓は、住民の願いで残されました。クルマ社会の現代、道路中央の「大木」は邪魔な存在ですが、運転で不便を感じるのはわずかな時間です。切り倒すのは一瞬、櫓が過ぎた歳月は数百年。利便性だけを追求せず、多少の不便を残しながらも景観を守るまらづくりを選択した行政に拍手です。

近くには、「東京都選定歴史的建造物」に選定された「日立目白クラブ」もあります。元は学習院昭和寮でしたが、昭和28年から本館は「日立目白クラブ」、別館は教会として使われているほか、戦前からの建物7棟があります。

さて、大分歩きました。駐在所の交差点を左に曲がり、突き当りの目白通りから目白駅へと戻りましょう。表通りを少し入ればさまざまな歴史と自然がひっそりと息づいている目白界隈。今回は神田川が流れる目白通り南側を紹介しましたが、北側にも風情ある場所が少なくありません。そちらは次の機会にまた。お疲れ様でした。(伊藤祐作)

